

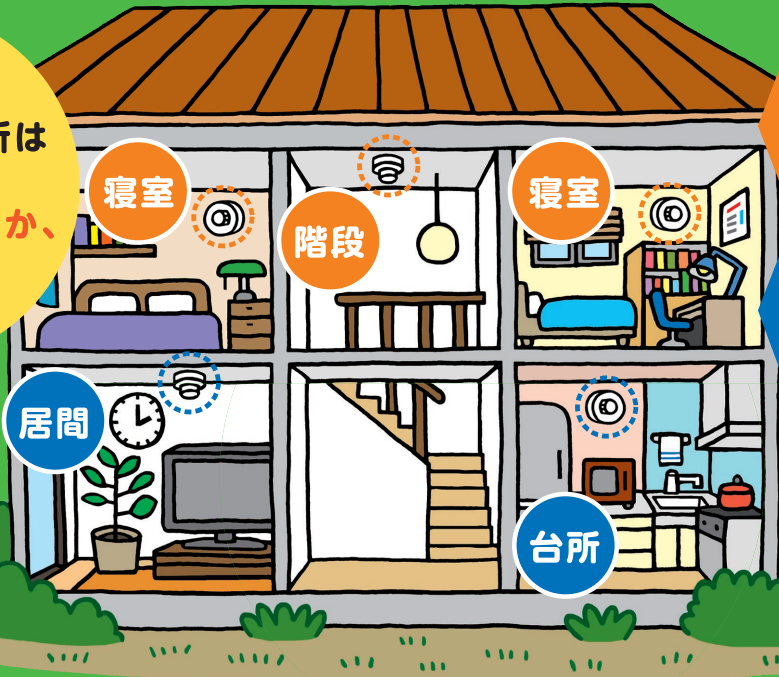
取り付けていますか？ 住宅用火災警報器



大切な家族の暮らしや命を見守る火災警報器。
消防法の改正により、設置が義務付けられているんだ。
取り付けていないと、**とっても危険だよ！**

でも、
一家に一個
ではダメ！

取り付ける場所は
ここだよ！
付け忘れがないか、
確認してね！



取り付けが
義務付けられている所
(寝室・階段)

取り付けを
おすすめする所
(台所・全ての居室)

※市町村条例により、取り付けが義務付けられている場合があります。

取り付け場所は
ここで確認！



市町村条例別の設置場所

検索

警報器が鳴ったら！



ピーピーピー

火災の時



ピーピーピー 火事です

- 火元を確認する。
- 周りに**大声**で知らせる。
- 避難する。
- 119番通報**する。
- 可能なら**初期消火**をする。



火災ではない時



ピーピーピー 火事です

- 火災でないことを確認する。
- 警報音を止める。
警報器の押しボタンを押すか引きひもを引く。
- 室内換気で音が停止。

※予想される原因
くん煙式殺虫剤、ホコリや虫、調理時発生的大量の煙や水蒸気



電池切れの場合



ピッ 電池切れです

- 警報音を止める。
警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
- 本体か電池を交換する。

※設置から10年以上経過している場合は、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。



機器異常の場合



ピッピッピッ 故障です

- 警報音を止める。
警報器の押しボタンを押すか、引きひもを引く。
- 本体を交換する。



10年たったら、とりカエル。



住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで、**火災を感知しなくなったり、故障しやすくなります。**安心・安全のために、定期的に作動をテストし、10年を目安に交換しましょう。



正常に作動するか、定期的にテストしよう！

ボタンを押す、または引きひもを引いて作動確認をしてください。

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージ、または火災警報音が鳴ります。

ピピ、
ピーピーピー

ピーピー 正常です
など



注) 警報音はメーカーや製品により異なります。

音が鳴らない場合は？

電池がきちんとセットされているか、ご確認ください。

...

しーん



● それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。

とりカエルのサイトで音を確認できます！

メーカーや製品ごとの住宅用火災警報器のブザー音を、パソコンやスマホで確認できます。



とりカエル ブザー音 検索
で検索してください。

※サイトでは、一部の製品を紹介しています。

「交換診断シート」で、わが家の火災警報器を診断しよう！

火災警報器の状態を診断する「住宅用火災警報器 交換診断シート」を作成しています。**交換が必要かどうか、簡単にチェックできます。**とりカエルのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。



お宅でも診断してね！

設置時期の確認方法なども掲載しています。うちの火災警報器を全て診断しましょう！



「交換診断シート」のダウンロードはこちらから



とりカエル 検索

新しい火災警報器に交換したら！
本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。



これから10年間、また安心を見守るよ！



記入例
設置年月 2022年1月

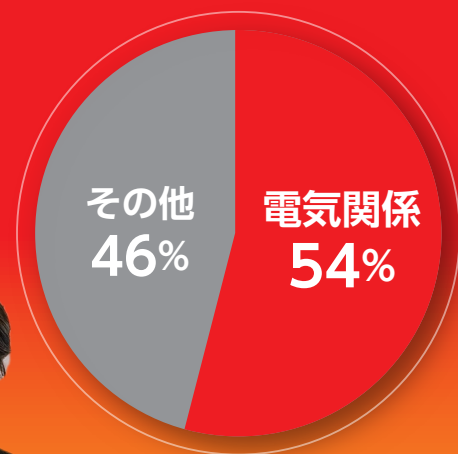
取扱説明書は、大切に保管してください。

⚠️ ご注意ください

- 火災警報器の種類によって、細かい注意点が異なります。製品に付属している取扱説明書を必ずご覧ください。
- 交換やお手入れ、作動確認は、高所での作業となり、転倒や落下などの危険があります。安定した足場を確保して、作業を行ってください。
- 煙の出る殺虫剤などを利用すると、警報音が鳴ることがあります。火災警報器をビニール袋で覆うなどしてください。終了後はビニール袋を必ず取り外してください。

お問い合わせ

今、備えよう。 大規模地震時における 電気火災対策



地震による火災の過半数は
電気が原因です。



過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、火災の被害が多く発生しています。

東日本大震災による火災では、上のグラフのとおり、原因の特定されたもののうち過半数は電気に起因したものでした。

<認証マーク・推奨マーク>



電気火災対策には感震ブレーカーが効果的です。

感震ブレーカーは震度5強相当の地震を感知して、電気を自動で遮断します。

感震ブレーカーには分電盤タイプ（内蔵型）、分電盤タイプ（後付型）、コンセントタイプ、簡易タイプがあります。

性能評価を受けた製品には、認証マークや推奨マークが表示されています。商品を選ぶときの参考にしましょう。

また、感震ブレーカーの設置には自治体によって補助制度もありますので、ホームページ等を確認し、問い合わせてみましょう。

分電盤タイプ（内蔵型）

分電盤に感震遮断機能が内蔵されています。地震が発生し、大きな揺れを感知すると、ブザー音がなります。夜間の避難などを考慮し、すぐには電気を遮断しない機能を持つ機種もありますが、その場合には感知して一定時間後、ブレーカーが落ち、電源を遮断します。設置には電気工事が必要です。



分電盤タイプ（後付型）

既設の分電盤に後から設置できる後付型です。設置には電気工事が必要となります。また、分電盤の形状や種類によって、取付けが可能なものと不可能なものがあるので確認が必要です。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが地震を感知するとコンセントからの電気を遮断します。電気が遮断されるのはこのコンセントに接続された家電のみですので、特に出火の危険性の高い電熱器具が接続されているコンセントを中心に設置すると効果的です。避難用の照明や在宅用医療器具等、地震時においても電力供給が必要な機器への電力供給を継続することができます。コンセントタイプには差込型の他に埋込型もあります。



簡易タイプ

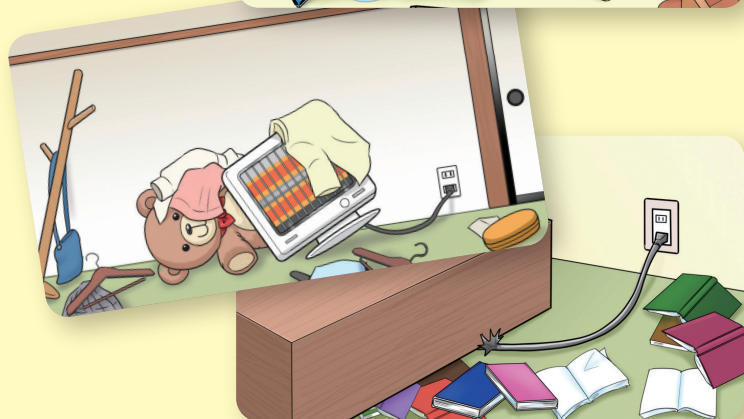
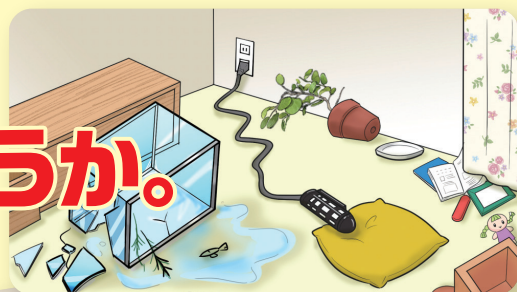
地震の振動で主幹ブレーカーをOFFに切り替えます。パネで動作するものや、おもりで動作するもの等があります。パネで動作するものは地震を感知すると、中のパネの力でパネが作動し、物理的に主幹ブレーカーをOFFにします。おもりで動作するものは、地震の振動でおもりが落ち、つながったひもで主幹ブレーカーをOFFにします。



どうして電気から火災が発生するのでしょうか。

地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことを言います。例えば以下の場合があります。

- 地震の揺れで電気ストーブが転倒したり、ストーブに落ちた洗濯物から出火する。
- 家具が転倒し、その下敷きで断線した電気コードがショートして出火する。
- 水槽が転倒し、水槽用のヒーターが燃える物に触れて出火する。



電気火災対策と合わせて取り組みましょう

建物の耐震化や家具の転倒防止に取り組む、暖房器具は耐震自動消火装置付のものにするといった対策や、自宅には住宅用火災警報器や消火器を備え、火が小さいうちは初期消火をするようにしましょう。

家具の転倒防止



消火器

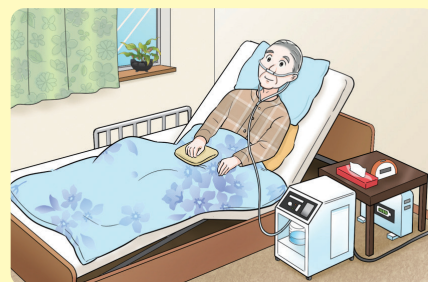


耐震自動消火装置付



感震ブレーカー設置後は電気が止まっても困らないための対策を

感震ブレーカーが作動すると停電となります。夜間の避難に備えて、停電時に作動する足元灯や懐中電灯等の照明器具を常備し、照明を確保しましょう。また、自宅に医療用機器等を設置している場合は、停電に対処できるようにバックアップ電源を確保しましょう。



電気の使用を再開する際の注意点

揺れが収まった後に電気の使用を再開する際には、ガス漏れ等が発生していないことを十分に確認しましょう。機器の周囲に可燃物がないか、機器やコンセントに水がかかっていないかなど、建物内の電気製品の安全確認を行い、万一の出火に備えて消火器等を準備した上で復電しましょう。また、復電後は、焦げたにおい等の火災の兆候がないか十分に注意し、異常を感じた場合は電気の使用を中止してください。

